

雑感 学習って、誰のもの？～地震と大雨から見てきたこと～

6月18日、震度6弱の大きな揺れが大
阪北部に発生。幸い学園は被害がなかつ
たのですが、大阪北部地域に住む子ども
たちやスタッフは、とても大きな揺れを
体験しました。交通機関も麻痺し、2時間
近くも電車内に閉じ込められた人、お家
のガスが復旧するまで何日もかかった人
もいました。地震当日は当然ながら学校
は休校。翌日、翌々日も安全確保のため
に休校となりました。地震への不安も
冷めやらぬ中、大雨が降り続き、西日本
の各地に甚大な被害を及ぼしました。そ
の影響でまたもや学校が休校。1学期間で
5日間の休校となり、「休校中の学習時間
をどう考えるのか」がスタッフ会議の議
題となりました。
「自然災害だから致し方ないと思うし、
災害に向き合う中で学んでいることもあ
ると思う」という意見がある一方、「ここ
まで学習時間が減った分、補填する必要
があると思う。2学期の開始を早めてい
る学校もあるようだ」という意見もあり

ました。議論を続ける中で、休校中の学
習時間は補填することが決まりましたが、
それをどのように行うのかは、なかなか
決まりませんでした。 そんな中で浮上
してきたのが、学園のキャッチフレーズ
「子どもが学びの主人公(小学部)」と、「学
ぶと生きるをデザインする(中学部)」。
学びに対して、最終的な決定権をもつのは、
子どもたち自身であることが確認され、
補填の方法や内容を大人の側で決め
るのではなく、「休校中の学習を補填した
いかどうかは、子どもたち一人ひとりが
決められる。スタッフはそのサポートを
する」ことが決まりました。
予期せぬことでしたが、地震と大雨に
よる5日間の休校は、「学習とは誰のもの
なのか？大人の側の責任・支援のあり
方とは何なのか？」を改めて問い直す機
会となりました。
(大阪北部地震・西日本豪雨にて被害に遭
われた皆様へ、心よりお見舞い申し上げ
ます)(藤田)

各種イベントのお知らせ(9月～12月)

おとなの森

■教育カフェマラソン

第65回 9/7(金) 荒木寿友さん(立命館大学教職研究科教授)
第66回 11月予定 金光敏(キムクアンミン)さん(コリア NGO センター事務局長)
【時間】18:30～20:45 【参加費】500円

■学び場コーディネーター Manabee プログラム「報告会&交流会」

6月より開催中の Manabee プログラム参加者の学びの報告会と交流会です。
【日時】12/16(日)17:00～20:00 【参加費】3,000円(軽食付き)

こそだての森

■親と子の土曜クラス「そら」

“とことんあそぶ” こどもの時間。“私”になれる大人の時間。それぞれの時間を大切に
にした就学前の子どもと親のクラスです。参加者募集中！
後期説明会は10/6(土)9:00～11:30(スライド上映、モノづくり、散歩など)
親子1組500円【対象】親子(満3歳～就学前)
【開催日】10/20、11/10、11/24、12/15(もちつき)、1/12、1/26、2/9、2/23、3/9、
3/23【時間】9:00～13:45【内容】子ども…室内自由遊び、自然発見、料理、
にじみ絵、おはなしなど。大人…子育てカフェ、好きなものを作る(好きプロ)など。
【募集】残り8組 【参加費】30,500円

■子育てカフェ「こどもの森のハッピーアドバイス」

4月～7月の講座の深化バージョン！より実践的な内容を学びます。
第1回 9/19(水)「自己肯定感UP 実践編」
第2回 10/17(水)「子どもの人生は子どものもの」
第3回 11/14(水)「パートナーシップUP 実践編」
第4回 12/12(水)「あなたの人生創造プロジェクト」
【時間】10:00～12:00
【参加費】2,000円 *4回まとめて申し込むと8,000円→5,000円に！
【講師】坂本田鶴子、守安あゆみ(認定子育てハッピーアドバイザー)【定員】20名

こんな学校に出会いたかった！！

♪箕面こどもの森学園 生徒募集♪

2018年度の生徒募集をしています！
自分も人も大切にしながら、いきいきと
学べる学校に入学しませんか？

募集人数

小学部：2018年度(1年生1名)
：2019年度(1年生8名)
：他の学年は欠員待ち受付中

中学部：2018年度・2019年度1年生若干名
見学日：月・水・金(事前申し込み必要)
体験入学：学校見学の後、所定日数の学習
体験をしていただきます。
入学面接：ご相談の上で日程を決めます。

※ご見学、ご入学をご希望の方は、下段の
各種お問合せ先までご連絡ください。

もりもりサポーター大募集！

20代～70代までの人たちが、年齢
や性別の枠を超えて、同じ夢を描くチー
ムの一員として和気あいあいと活動でき
るのが、箕面こどもの森学園の醍醐味。
ぜひ、もりもりサポーター(賛助会員)
になって、ご関心のあるところに参加し
ていただければとてもうれしいです！

- *こどもの森：インターン(学習サポート)
*おとなの森：教育カフェマラソン実行委員
*こそだての森：保育サポーター
*ミライの森：ロハス実行委員
*全体：ファンドレイザー、イベントサポーター

ミライの森

ロハス in こどもの森
「15周年 世界を感じるロハス」

今年のロハスのテーマは「世界」。
わたしたちの生活と世界とのつながり
を感じる一日を親子で楽しもう！
スローフードのお店、フェアトレード
雑貨、手作りワークショップなど。人
にも地球にもやさしいお店が大集合。
【開催日】10/27(土)
【時間】10:30～15:00 【入場無料】

各種お問い合わせ先：

TEL&FAX：072-735-7676
メール：info@kodomonono-mori.com
URL：http://kodomonono-mori.com

《編集後記》

今年は大阪北部に大きな地震があり、その
直後、稀に見る大雨や台風でたくさんの被害
がありました。普段からの災害への心構えを
考えながら過ごす夏休みでした。
改めて「生きる力」を学んで、備えておか
なければいけないのだと思いました。(日置)



発行日：2018年9月12日
発行所：認定NPO法人 箕面こどもの森学園
〒562-0032
大阪府箕面市小野原西6-15-31
tel&fax 072-735-7676
e-mail info@kodomonono-mori.com
URL http://kodomonono-mori.com
ユネスコスクール
Member of
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization
Associated
Schools

テーマ学習
「めぐる生命(いのち)」

1学期は「めぐる生命(いのち)」をテー
マに、学校全体で学びを深めていきました。
最初、子どもたちの興味関心は、人(赤
ちゃん)・動植物・生き物のいのちや、か
らだのしくみ、水、など様々に広がってい
るようでした。そして、保護者の方のご協
力で学園でお話をさせていただいたり、外部
の施設や博物館へ見学に行ったりする中
で、子どもたちは最初に抱いた疑問が深ま
り、別の視点を得ていきました。絵本を用
いて対話や哲学もしました。

高学年は個人やグループになり、いのち
について感じたこと、考えたことなどを発
表しました。殺処分やIPS細胞、外来種
のこと、「いのちってなに？」をテーマにし
た自作の詩など、正解のない問いを前に自
分なりの考えを伝えてくれました。

低学年では、一人ひとりがイメージする
いのちのかたちを、粘土や絵の具などを
使って表現し、それをひとつひとつ枝にか
け、大きな1本の「いのちの樹」を製作
しました。

最後に、「地球がないと自分も生きてい
ないから」「いのちは丸いイメージ」「星に
もいのちがあると思ったから土星を作っ
た」など、自分が作りたいいのちのかたち
について発表しました。(福田)



いのちの樹

こどもの森の体育祭の魅力

4月の全校集会で決めた、年度最初の全
員でとりくむ行事が体育祭です。決定か
ら実施まで、期間はあまり長くありませ

んでしたが、実行委員の人たちを中心に、
準備が進みました。

こどもの森の体育祭は、7つのグルー
プにわかれて、その年のグループなりの工夫
をこめ、いろんなアイデアを織り交ぜたプ
ログラム作りが魅力の一つです。

それぞれのプログラムへの参加は自由な
ので、積極的にたくさん参加する人もいれ
ば、出たいものに集中して全力を注ぐ人も
います。今年はお天気が心配でしたが、当
日は晴れ間が広がり、小さな弟や妹からお
じいちゃん、おばあちゃんまで、たくさん
のご家族が参加されて、にぎやかで楽しい
時間になりました。(藤丸)



おんがくABCのまとめ会

1学期の発表会はとても素敵な会でし
た。おんがくAの子どもたちからは、発
表することのワクワクが感じられました。
全員が自分のパートを全力で楽しむ姿か
ら「純粋に音楽する、ってとても魅力的
なんだと教えられた気がします。次におん
がくB。「絶対に成功させる！」という気
持ちが伝わる演奏でした。個々に楽しみな
がら自然と一つになった過程は、お客さん
も感じたはず。全員の「力強い何か」に
嬉しくなりました。最後はおんがくC。と
ても繊細な演奏でした。

プレッシャーを感じながらも人の心に
届く演奏ができた彼らは、きっと色々な場
面でこの力を発揮しているんだろうなど
感じました。まだまだ子どもたちが秘めた
可能性を楽しみに、音楽の時間を過ごして
いけたらと思います。(松本)

手作りの夏祭り！

大雨で1週間後に延期となり、猛暑の
中で開催となった今年の夏祭り。今回は子
どもたちが全てのお店を自分たちで作って
夏祭りを盛り上げました。

実行委員会では、中学生が仕事を把握し
て全体をまとめ、小学1年生の人たちにも
役割を担ってもらえるように丁寧にサ
ポートして協働することができました。今
年はブラックボックスという新しいお店も
あったり、毎年恒例のお化け屋敷も今年
のアレンジがあったりしました。その他にも、
たこせん・スーパーボールすくい、手作り
アクセサリ・手作りお菓子・ジュース・
キュウリの一本漬け、中学生によるかき氷
屋など、それぞれが工夫したお店を出しま
した。売り上げは修学旅行などの子どもた
ちの活動資金になります。(佐野)



夏祭り実行委員揃い踏み

こどもの森の図書館づくり

2015年に中学部の校舎が完成し、3学
期に中学部集会で1階のスペース活用が話
し合われました。翌年に共同プロジェクト
として図書館づくりが始まり、室内のレイ
アウト、書架の購入、PCによる利用者登
録、貸出のルール決めなどが行われ、現在
は、図書委員(小学部・中学部)が図書の
管理や貸し出し、返却の作業などを行って
います。休憩時間や放課後に図書館で過ご
し、本に親しむ人が少しずつ増えてきま
した。

より多くの人に利用しやすく楽しめる場
所になるように、みんなでアイデアを出し
あって図書館づくりがすすめられていま
す。(芳仲)

【小学部】

自由作文

サッカー しょうたろう (2年)

きのうホールで、ゆず、さね、りゅうと、ちの、りんで、サッカーをした。しあいがおもしろかった。

こわい音楽をきいたこと りゅうと (3年)

きのう、たもくてきしつでそらと、たくと、たけみと、ちのと、さよで、ヨシエミュージックがこわかった。近づいてくると音がおおきくなり、とおくなると音が小さくなりました。

休みの日にしたこと りょうたろう (4年)

金よう日に、かぞくでキャンプにいて、金よう日は、雨だったから、あんまりあそべなかったけど、土よう日は、ドッグランとカンケリと川あそびができてよかった。

日よう日は、バイブレイドをかってもらってよかった。あと、火よう日にワールドカップの日本×コロンビアをテレビで見て、日本がコロンビアにかかったから、すごいなあとと思った。

プロジェクト紹介

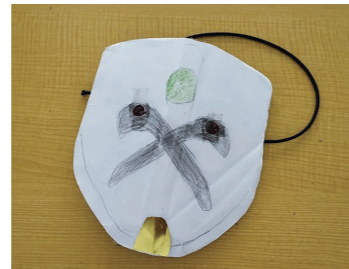
イス ようこ (1年)

どうしてつくったのかというと、まえにつくえをつつたので、いすがほしかったからです。

まず、ぶあついいたを2まいよういし、ひらたいいたにくぎでくっつけます。つぎに、みじかくて、ぶあついほうを4ほんよういし、ぶあついいたといたのまえとうしろに2ほんくぎでくっつけます。うしろもまえもできたら、かんせいです。

かかったじかんは20コマぐらいです。たのしかったところは、きるところです。はんせいてんは、せもたれをつけたらよかったです。

つぎにやってみたいことはガチャです。



仮面 こうへい (5年)

プロジェクトで何しようかかんがえて、ちょっと早いけどとりあえずハロウィン用につくりました。ざいりょうは、かみ、ゴムひも、のり、カッター、きんいろにひかる紙です。

まず、段ボールをすきなサイズにきります。左右たいしょうにゴムひもが入るサイズの穴をダンボールのよこがわから内がわにあけます。そこにゴムひもをどうしてむすびます。外がみえるように穴をあけて赤いセロハンをはります。あとは、目のぶ分にあわせて木をかき、きんいろのかみをはってかんせいです。かかった時間はプロジェクト10コマ分です。がんばったのは、すべての穴をあけることとひもとのおすことです。

【中学部】

共同プロジェクト

ワールドオリエンテーション

1学期は“めぐる生命”を全体テーマに学習に取り組みました。

地球の誕生から生命が生まれる道のりをたどり、小児科医の郷間環さんからは体の仕組み、道端慶太郎さんからは自然や生態系のお話を聞きました。また人と自然の博物館やハッピーハウスを訪れ、いろいろな生命について理解を深めていきました。そうして一人ひとりの興味や疑問から、個人の研究テーマについて調べていきました。

「なぜ命は絶滅しないように進化しないの?」「人は無意識のうちに命に優劣をつけているのでは?」「遺伝子組み換え食品の命への影響は?」「人は動物をどう扱っているの?」「人工知能と生命の違いは?」「北極のシロクマには、地球温暖化のどんな影響がある?」「外来種はなぜ悪いと言われていての?本当に悪いの?」「めぐる生命」と同じテーマから始まっても、そこから子

もたちの関心はそれぞれに広がっていきました。

本やインターネットで調べたり、アンケートで意見を集めたり、研究者や環境保全団体の方にメールや電話で問い合わせたりしました。

発表の日は、生命が存在していることはすごい確率だったという驚き、知っていくうちに面白かったこと、そして心がざわざわしたことなど、調べながら分かったことや気持ちを伝えました。また自分たちができることでは、周りの人に伝える、人も動物も植物も大切に、自然に優しい商品を開発する、はっきりした答えが出ないのでこれからも考えていきたいという声も。

今回の学習をきっかけに、まわりにある生命に目を向け大切にしていけるために、私たちができていることを考えていけたらと感じています。(高原)

認定NPO法人箕面こどもの森学園の事業活動 4月～8月

創立15周年を迎えて

1999年に『大阪に新しい学校を創る会』が発足。2003年にNPO法人になり、2004年に『わくわく子ども学校』がスタートしました。それから15年が経ち、今では小学部・中学部合わせて50人余りの子どもたちが学んでいます。

7月21日に創立15周年記念パーティを開きましたが、会員、来賓、卒業生など70人以上の方が来ていただきました。運営委員を中心に、こどもの森の将来についてのミーティングを何度も重ね、「多様な学び場づくり」や「持続可能なまちづくり」にも力を注ぎようということになり、NPO法人の活動を『こどもの森』、『こそだての森』、『おとなの森』、『ミライの森』の4つの分野に分けて、やって行くことになりました。「20周年」に向かって、さらに努力をしておりますので、引き続きご支援をお願い致します。なお、創立15周年の記念誌の発行とTシャツを作りましたので、よろしければ、お買い求めください。(辻)



4つの力を育む「子育てカフェ」

自主性・仲間と協力する心・自分大好き!そんなものが育まれている箕面こどもの森学園の子どもたち。この子どもたちは、なぜこんなに素敵に育っているんだろう? その秘密をお伝えしたら、ご家庭でも生かして頂けるのではないだろうか? そんな思いから開催させて頂いた今回の「子育てカフェ」。

箕面こどもの森学園が大切にしている4つの力 ①自己肯定感 ②主体性 ③協働 ④創造力。これを育むために、行っている学習方法をお伝えし、家庭で取り入れるとしたら? その問いを参加者の方々と共に考えるーそんな時間になりました。

皆様方が非常に真摯にご自身と向き合われ、「親としての在り方」を深く探究されていたのがとても印象的でした。(坂本)

持続可能なミライを創るために ～2030SDGsカードゲーム～

SDGsとは、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成する行動計画で、17の大きな目標からできています。これをわかりやすく体験できるようにしたのが、2030SDGsカードゲームです。箕面こどもの森学園が取り組んでいるESD(持続可能な開発のための教育)や、これから目指す持続可能なまちづくりのことを伝えるために、このカードゲームのファシリテーター資格を取得しました。

滋賀県で開催したことを皮切りに、高校や大学の授業、環境団体の総会や県の職員研修でも実施しました。このカードゲームを体験すると、自分が変わることが社会を変えていき、自分自身が変化の起点になっていることがよくわかります。

私たち一人一人は、微力であっても無力ではありません。自分に何ができるのか、自分たちに何が出来るのかを考えながら、共に未来を創っていきましょう。(藤田)



中国政府日本教職員 招へいプログラムに参加して

6月3日から9日にかけて、中国の教育現場の見学と教職員との交流をするプログラムに参加し、北京・甘肅省・上海という大きく離れた3箇所の小学校や高等学校を訪問しました。

中国の教育に触れて感じたことは2つです。1つ目は、成績や実績などの目に見える証を重視する雰囲気があること。どの学校の掲示物にも児童の実績が掲げられ、その獲得に向かうことを奨励する雰囲気を感じました。2つ目は、中国でもサステナブルな取り組みが進められていること。甘肅省では、砂漠化が進んでおり、植林している様子や街中の看板などから、環境へ配慮しようとする動きが見られました。

今回の経験と中国の方との繋がりをこどもの森にも活かしていきたいです。(矢吹)



中国教育部(日本の文科省)前で

イエローシート活動を振り返る

本年3月末をもって、イオン箕面店でのイエローシート活動が終了することになりました。その理由は、それまでは自由であった参加条件が、人数は大人2人まで、場所は指定の1箇所だけと厳しくなり、子どもと大人が協働して楽しく活動する意義が薄れたからです。2014年～17年度の4年間の延参加者数は、子ども46人、保護者45人、運営委員51人、受取った寄付金の合計額は318,300円。これは買い物客の領収書を毎回約400枚集めたことに相当します。文字通り学園の子どもと大人の協働の成果です。(松崎)